

調査場所 伊方町 伊方越漁港  
(インフラ(港湾)被害調査 伊方越漁港の泊地埋没)  
調査日 2018年7月13日(金)  
調査者 畑田 佳男



伊方越漁港位置



県道 255 号線亀浦トンネル (2018年3月開通) 西側から伊方越漁港を望む



亀浦トンネル（2018年3月開通）西側の斜面



伊方越漁港（防波堤から陸側を撮影，突堤上方の斜面上部が亀浦トンネル西側になる）

伊方越漁港と亀浦トンネル西側の高低差は 90m 程度



左から 泊地埋没の様子, 突堤付近の流れ, 流れ上部の道路湾曲部分



堆積した石礫の大きさは 20cm から 30cm 程度

亀浦トンネル西側部分の石礫が漁港に流入し、泊地埋没に至ったと考えられる。漁港付近の植生や道路には礫が流れ込んだ跡が認められず、石礫の漁港直近の経路が解らなかった（直径 1m 程の管路から漁港内に扇状に流出した？）

なお、漁港内で撮影した 14 時前後は干潮にあたる（松山の干潮時刻は松山 15:02, 宇和島 13:11）。また、漁港は最寄りの集落から 0.3km(高低差 70m)程離れており、無人の状態だった。